

はじめに

～「家庭は温かく、学校は楽しく、地域は優しい」好循環のために～

「可哀想は時に人を傷つける」－これは、今年度の地域安全・青少年健全育成市民大会での蒲郡中学校3年生・古川小乃梨さんの意見発表の言葉です。彼女の発表を聞いて、私はどきりとしました。

「相手についてしっかり理解していないのに『可哀想』という言葉を使うと相手を傷つけてしまうし、相手を否定することになるかもしれません。私は、自分の価値観や、自分の基準で不幸な人だと決めつけて『可哀想』と言ったり見たりしているだけではなく、その人を理解し、寄り添うよう心がけたいと思います。そして、そんな雰囲気が広がっていくように働きかけたいと思います」と、古川さんは結んでいます。彼女は、お兄さんが耳に障害を持ち聾学校に通っているのですが、そうした経験から学び、こうした意見を述べています。

人が生きていく上で、性別や身体の特徴、障害の有無などに関わらず、各々の人格を認め差別することなく、他者を尊重した生き方をすることを若いときに学ぶ必要があります。子どもたちは、人との関係を家庭での親子関係、学校での学びや集団活動、地域での活動や地域の皆さんとのふれあいなどから学ぶものです。様々な経験を通して、人として相手を思いやる心の大切さなどを学びます。

そうした意味で、昭和56年度に7中学校区に青少年健全育成協議会をたち上げ、平成7年度からは「地域ふれあい活動」などの活動が続けられている本市の青少年健全育成事業は、大変意義あるものです。今年度も各地区の皆様のご協力をいただき、ふれあい活動など青少年健全育成事業を実施していただいたことに深く感謝を申し上げます。

携帯電話、SNSなどが普及し、子どもたち同士、子どもと大人のコミュニケーションの取り方もこれまでと大きく変わってきています。しかし、SNSなどは、一方的な伝達や顔や声などの表情もない伝達手段であり、間接的で相手の気持ちを思いはかることもできません。人が人として成長するためには、多くの人と直接関わる必要があります。

「家庭は温かく、学校は楽しく、地域は優しい」そうした好循環の環境を目指して、青少年健全育成事業がこれからも進むことを期待し、関係の皆様のご支援を心からお願いするものです。

平成31年2月 蒲郡市教育委員会教育長 大原義文

も く じ

は じ め に

I	平成 30 年度 青少年健全育成地域活動推進事業	1
II	平成 30 年度 青少年健全育成協議会・地域ふれあい活動	2
1	大塚地区	3
2	三谷地区	7
3	蒲郡地区	10
4	中部地区	15
5	塩津地区	19
6	形原地区	27
7	西浦地区	33
	○健全育成協議会並びにふれあい活動のまとめ	37
III	補導員活動	38
IV	平成 30 年度 地域安全・青少年健全育成市民大会	39
	○大会宣言	40
	○小学生・中学生・高校生の意見発表	41
V	蒲郡市子ども・若者支援ネットワーク協議会の取組	55
VI	スマートフォン・携帯電話等の利用に関するアンケート調査結果	58

お わ り に